



TOP > 中野の歴史 > 古代編 > 【中野の歴史－古代編7－】そして誰もいなくなった



## 【中野の歴史－古代編7－】そして誰もいなくなった

2016.05.20 UP 投稿者：まるっと中野編集部

[中野の歴史] [古代編]



奈良・平安時代の武蔵国の各郡●は中野区  
の位置■が国府の位置

なぜか中野区には奈良時代(8世紀)の集落遺跡がありません。それ以前の集落は、6世紀代から7世紀中頃まで、北原遺跡・平和の森遺跡・新井三丁目遺跡・中野神明小学校校庭遺跡・富士見台遺跡・向田遺跡など区内全域に認められているのですが、8世紀になるとパタッとなくなってしまいます。普通は遺跡はなくても土器のかけらぐらいは見つかるものですが、それもあります。いったい何が起こったのでしょうか。

7世紀後半、全国の国が定められ、中野区は武蔵国多摩郡の一番東側に属しました。武蔵国の国府は府中市に定められ、国司が派遣されました。国司の第一の任務は今も変わらず税収の確保でした。当時の主な税は「正税」といって稲の収穫でした。武蔵野台地の真ん中で水田の少ない中野区は、税収の向上には向かない地域でした。ちょうど、国全体として開墾計画が進められていましたので、新たな新田開発が始まっていたのです。この界限では、多摩川流域の狛江・調布・府中・日野といった可耕地が開発されたと考えられます。その証拠として、これらの地域では7世紀末以降に急激に集落遺跡が増えていることが挙げられます。

反面、この時期に遺跡がなくなることは、集落が計画的に移住させられたということが考えられます。中野区の7世紀後半以降の人々は多摩南部地域へと引っ越して行ったのです。

(中野区立歴史民俗資料館館長 比田井克仁)

※問い合わせ先の記載がない記事については、まるっと中野編集部までお問い合わせ下さい。

掲載場所近隣の区民の皆様にご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

※掲載情報は全て記事取材当時のものです。